

E-9 青年の生活空間としての個室について (中ノ報) 室内構成とイメージ
山梨大教育 浅見雅子

目的 児童と成人との間の時期で 独特の生活空間の構造を持つ、心身共の発達過程にある青年が、住居の中に占めるプライベートな空間を、何時与えられ、どのように構成し、生活しているのか、実態をつかむことと、個室に対する意識(感覚、感情)を把握することを目的としたものである。

方法 調査方法は、山梨県甲府市の中学、高校、大学で、ほぼ同じ社会階層の家庭の子が通学している学校を選び、526人(中学、高校は男女各100人づつ、大学、男49人、女77人)を対象として、質問紙調査法で行ったものである。調査期日は、昭和48年11月~12月にかけて行ったものである。

結果 今回は室内構成とイメージについてまとめたものである。

1) 室内構成としての個室の所有家具は、机が88%、本棚73%、算笥63%、ついで、椅子、ベッドの順である。また家具の占有面積は18~50%となっており、所有家具の多いことを示している。

2) 室内装飾としてのカーテンの色は黄色系統が多く、壁は茶色、クリーム色系統、敷物は赤色、緑色が多い。全体として、暖色系でまとめられており、気持ちひまたてられる効果を求めている。

3) 個室に対するイメージをS.D方法で質問した結果は、平均で、中学では、なじみ深い、落ち着いた、明るい、若々しい、イメージで、高校では、なじみ深い、大学では、静か、落ち着いた、感じ、個室に対し積極的な切りかけの多いことを示している。